

宇都宮市立宝木小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の肯定割合は69.6%で、県平均より12.9ポイント上回っている。一人一台タブレット端末の活用もあり、ICTを活用した調べ学習が進んできた回答の表れと考えられる。引き続き使い方等の指導をしていながら、有効活用していきたい。

○「学級活動の時間に友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていると思う」の肯定的割合は89.2%で、県平均より5.4ポイント、「自分はクラスの役に立っていると思う」も66.7%で、県の平均より7.4ポイント上回っている。学級活動での話し合い活動の充実、当番活動や係活動などの児童の自主的取り組み等の成果の表れと考えられる。

●「勉強をしていて面白い、楽しいと思うことがある」の肯定的回答は83.3%で、県平均より3.4ポイント、「勉強をしていて『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」も5.3ポイント上回っている。また、「次の教科などの学習は、しょうるのために大切だと思いますか」の設問では、国語・社会・算数・理科・総合的な学習の時間の全てにおいて、肯定割合が県の平均より上回っている。一方で、「家で、授業の予習をしている」は肯定的回答が10.6ポイント、「家で学校の授業の復習をしている」が11.3ポイント、「家で学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」も6.2ポイント、県平均よりも下回っている。これらのことから、学びへの関心・学習することを大切に思う気持ちはあるが、自分の学習への繋げ方に課題がみられることが分かる。引き続き、児童の意欲を大切にしながら、学習方法を指導していく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」の肯定割合は74.5%で、県平均と比べ15.6ポイント上回り、自分の考えを言葉や文章で書くことを苦手と感じている児童が多いことが分かる。「人と話すことは楽しい」、「自分の行動や発言に自信をもっている」に対する肯定的回答が県の平均より上回っていることから、授業の中で、話し合い活動を取り入れながら、自分の考えを文章化・言語化するにはどうすればよいのか指導していきたい。

宇都宮市立宝木小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・児童が積極的に自分の考えを発言でき、一人一人の意見を大切に合える授業実践に努める。導入や発問、学習活動を工夫し、一人一人の学びを見取る指導・支援をする。	・「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感じることがある」の質問に対し、4年生は80.4%で県より1.5ポイント、5年生は87.2%で県より5.3ポイント高かった。また、「勉強していておもしろい、楽しいと思うことがある」の質問に対し、4年生は県より1.1ポイント低かったが79.4%で、5年生は83.3%で県より3.4ポイント高かった。主体的に学習に取り組む態度について効果が表れつつある。
・まとめ学習の充実と家庭学習の習慣化	・月別学習目標を活用し、基本的な学習習慣の形成を図るとともに、「陽西地域学校園学習の手引き」を活用したり、学習が伸びる週間を年2回設けたりする。	・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」「家で、学校の授業の予習をしている」「家で、学校の授業の復習をしている」「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている」「家で、学校やじゅくの決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」のいずれの質問でも、4年生、5年生ともに、肯定的回答が県より低い結果となった。家庭学習の習慣化に大きな課題がみられる。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・進んで話し合いに参加したり、自分の考えを言葉で表したりすることが難しいと感じている。	・対話的な学び、深い学びの実現に向けて、教材やICT等を効果的に活用する。	・コロナ禍においても、全体やグループでの話し合い活動を活発に行い、多様な考えに触れ、相互に関連付けたり、共通点や相違点を見出したりできるようにさせる。そこで、タブレット等のICTを効果的に活用し、自分の考えを表現する場や方法を工夫した授業づくりをしていく。